

## 伊豆東岸定置網における主要魚種の

### 令和4年下半期の漁況経過と令和5年上半期の漁況予測

#### 1 令和4年下半期（7～12月）の経過

##### (1) 海況

黒潮は平成29年9月中旬以降、A型の大蛇行流路が継続しています。相模湾における沿岸水温は、7月は「**平年並み**」～「**高め**」、8月は「**やや低め**」～「**やや高め**」、9月は「**やや低め**」～「**高め**」、10月は「**平年並み**」～「**高め**」、11月は「**やや高め**」～「**高め**」、12月は「**平年並み**」～「**極めて高め**」でした。

##### (1) 総漁獲量

伊豆半島東岸大型定置網7か統（伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津）における令和4年7～12月の魚種別月別漁獲量を表1に示しました。総漁獲量は1407トンで、前年の1.2倍、平年（1982～2021年平均値）の77%でした。多獲された魚種は、さば類、マルソウダ、ウルメイワシ、マアジ、ヤマトカマスでした。

##### (2) 魚種別漁獲量（ブリ・マアジ・さば類）

###### (ア) ブリ

ブリ（ぶり、わらさ、いなだ、わかし）の漁獲量は39.3トンで、前年比1.1倍、平年比53%でした。銘柄別にみると、ぶりは1.3トンで、前年比5.0倍、平年比18%でした。わらさは19.7トンで、前年比3.1倍、平年比2.3倍、いなだは2.2トンで、前年比41%、平年比9%、わかしは16.0トンで、前年比68%、平年比71%でした。

漁獲されたブリは、尾叉長30～40cmのわかし、いなだ及び60cm以上のわらさでした。

###### (イ) マアジ

マアジ（じんだ銘柄を除く）の漁獲量は90.7トン、前年比2.0倍、平年比82%でした。じんだ（小型当歳魚）の漁獲量は17kgと2014年以降では最低の漁獲量となりました。ただし、マアジについてはマアジとマアジ小の2つの銘柄があり、2022年のマアジ小銘柄は、同じくじんだ銘柄の漁獲量が少なかった2014年、2016年と比較して多く、成長の早い0歳魚がじんだではなくマアジ小銘柄に属している可能性があります。

漁獲されたマアジの尾叉長は、7月は13cmにモードが認められ、2022年級群（0歳魚）と考えられました。これらは12月には19cmモードに成長しました。

（ウ）さば類

ゴマサバの漁獲量は408.1トンで、前年比1.4倍、平年比84%でした。漁獲されたゴマサバは、7～8月は尾叉長30～35cmが主体であったが、9月以降は25～30cmの割合が増加して11月以降は30～35cm主体でした。

マサバの漁獲量は45.1トンで、前年比22%、平年比1.5倍でした。漁獲されたマサバは尾叉長30cm～40cmのものが見られ、9月には尾叉長20～25cmのものも見られました。

サバッコ（さば類小型当歳魚銘柄）の漁獲量は66.4トンで、前年比4.8倍、平年比1.6倍でした。

表1 伊豆半島東岸大型定置網における令和5年上半期の月別魚種別漁獲量（kg）

魚種名(銘柄)	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
ブリ(ぶり)	0	0	15	403	40	880	1,338
ブリ(わらさ)	9,731	2,378	2,419	1,739	1,257	2,190	19,713
ブリ(いなだ)	270	856	46	338	321	395	2,227
ブリ(わかし)	672	4,828	5,199	1,988	2,488	865	16,039
ヒラマサ	0	0	0	1	14	18	33
カンパチ	1,473	453	737	4,339	4,862	2,387	14,251
マサバ	478	7,887	20,841	3,328	2,826	9,769	45,128
ゴマサバ	106,008	165,338	40,913	57,044	14,893	23,920	408,115
さばっこ	453	17,896	9,926	21,397	4,296	12,461	66,428
マイワシ	15,692	529	20,302	537	1,291	54	38,404
カタクチイワシ	1,422	60	0	0	0	0	1,482
ウルメイワシ	7,700	792	11,630	19,977	70,216	10,922	121,237
マアジ	34,275	18,049	11,426	18,442	8,539	7,003	97,733
マアジ・じんだ	17	0	0	0	0	0	17
マルソウダ	3,858	20,900	11,486	39,041	22,420	91,469	189,174
ヤマトカマス	1,557	15,441	33,560	34,323	5,680	1,206	91,766
アカカマス	744	2,054	6,142	28,707	6,214	8,228	52,088
イサキ	1,750	2,647	6,238	8,181	10,028	5,954	34,798
メアジ	45	55	275	4,768	6,512	14,271	25,926
シイラ	2,280	1,017	4,504	5,035	5,106	3,008	20,949
ムツ	2,652	4,053	4,855	3,809	1,507	629	17,505
キハダ	40	1,177	6,128	8,242	1,556	278	17,420
ふぐ類	16	62	241	2,933	3,711	8,084	15,046
オアカモロ	17	276	20	5,039	28	5,417	10,796
スルメイカ	1,999	2,070	358	295	733	4,500	9,955
コイカ	0	1	0	0	0	0	1
ヤリイカ	5	14	42	21	11	34	127
アオリイカ	9	1	136	177	312	331	966
その他	15,749	9,976	12,484	16,653	13,056	20,591	88,508
総計	208,910	278,808	209,920	286,754	187,917	234,860	1,407,168

## 2 令和5年上半期（1～6月）の漁況予測

水産・海洋技術研究所伊豆分場は、神奈川県水産技術センターと共同で、令和5年上半期（1～6月）の伊豆東岸定置網における漁況を表2のとおり予測しました。

表2 伊豆半島東岸大型定置網における令和5年上半期の漁況予測

海況	黒潮は大蛇行が継続してA型基調で推移する。 沿岸水温は「平年並み」から「高め」で推移する。黒潮からの暖水波及が流入した場合は「極めて高め」となる。
マアジ	来遊量は前年を下回る。魚体は尾又長20cm前後。
マサバ	来遊量は前年並～下回る。魚体は尾又長30～35cm。
ゴマサバ	来遊量は前年を下回る。魚体は尾又長30cm以上及び25～30cm。
マイワシ	来遊量は前年並み～下回る。魚体は被鱗体長13～15cm。
カタクチイワシ	来遊量は前年並み～下回る。魚体は被鱗体長9～11cm。
ブリ	来遊量は前年並み～上回る。銘柄ぶり・わらさ主体。

### ・海況

2023年上半期の黒潮は、大蛇行終息の兆候が見られず、A型流路が継続すると予測しました。沿岸水温は「平年並み」～「高め」で推移し、暖水波及が流入した場合は「極めて高め」となると予測しました。

### ・マアジ

マアジ太平洋系群資源量は2015年頃より低調に推移しています。伊豆東岸定置網漁獲量は、2006年頃より減少傾向で推移しており、2022年は2021年の漁獲量の2.2倍となりましたが、引き続き不漁であった1980年代と同レベルの低水準となっています。

上半期は尾又長20cm前後の1歳魚主体に漁獲されます。上半期の1歳魚漁獲尾数は、前年4～11月の0歳魚漁獲尾数と比例関係にあり、2022年4～11月の0歳魚漁獲尾数が前年を下回ったことから、今期の来遊量は「前年を下回る」と予測しました。

### ・マサバ

マサバ太平洋系群資源量は2013年頃から増加傾向で推移しています。伊豆東岸定置網漁獲量は2018年に約400トンに急増した後、100～200トン台に減少しまし

たが、2021年に再び300トン以上に増加し、2022年は前年を上回りました。

上半期は尾叉長30～35cm主体に漁獲されます。上半期に伊豆東岸海域に来遊するマサバは、2月頃までは産卵南下回遊群、それ以降は産卵後の北上回遊群が主体であり、資源量は横ばい傾向が続いています。しかし常磐沖の黒潮続流の北偏が2023年1月以降も継続することが予測されており、産卵南下回遊群の来遊が遅れることが予測されることから、2023年上半期の来遊水準は前年並または前年を下回ると予測しました。

#### ・ゴマサバ

ゴマサバ太平洋系群資源量は2017年頃から低い水準で推移しています。伊豆東岸定置網では2001年以降、尾叉長30～35cm主体に漁獲されていますが、2022年下半年は9月頃から25～30cmの漁獲されていることから、2023年上半期は30～35cmに加えて25～30cmも多く来遊すると考えられました。資源量は2017年頃から低い水準で推移しており、また2022年は9～10月に当歳魚とみられる尾叉長25cmの個体が多く、漁獲量が少なかった1970年代の状況に変化する傾向が見られることから、2023年上半期の来遊水準は前年を下回ると予測しました。

#### ・マイワシ

マイワシ太平洋系群資源量は2010年頃から増加傾向で推移しており、伊豆東岸定置網漁獲量も2021年が872トン、2022年が1,491トン(上半期漁獲量は1982年以降最も多い)と好調に推移しています。

上半期は沖合域から来遊する被鱗体長13～15cm(1歳魚)主体と考えられています。今期の1歳魚の加入量は2021年同様多いと考えられており、2023年上半期は沖合から来遊しやすい海況条件(暖水波及等)となった場合は前年並の好漁が期待されますが、そうならなかった場合は前年の漁獲を下回ることも考えられます

#### ・カタクチイワシ

カタクチイワシ太平洋系群資源量は2004年頃から減少に転じ、2018年以降、低水準で推移していますが、伊豆東岸定置網漁獲量は2012年頃から減少傾向が認められ、2018年以降は低調に推移しています。

上半期は沖合から来遊する被鱗体長9～11cmの1歳魚主体に2歳魚がわずかに混じって漁獲されると考えられます。資源量は低水準で1歳魚は昨年と同様か下回る水準にあると考えられています。そのため2023年上半期は沖合から来遊しやすい海況条件(暖水波及等)となった場合は前年並、そうならなかった場合は前年を下回る来遊量と予測しました。

#### ・ブリ

ブリ資源量は2009年頃から増加傾向を示し、現在も高水準で推移していますが、伊豆東岸定置網漁獲量は2015年の1,000トンをピークに減少傾向にあります。

上半期はブリ・ワラサ銘柄主体に漁獲されています。ブリ(3歳以上)資源量は2015年以降も高い水準で推移していること、ブリ(3歳以上)資源量と伊豆東岸大型定置網のぶり・わらさ銘柄漁獲量は比例関係にあることから、2023年上半期の来遊量は前年並み〜上回ると予測しました。

(岡田裕史)